

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	biweeklyセツキシマブ+PTX(頭頸部がん)
診療科名	腫瘍内科
診療科責任者名	大山 優
適応がん種	頭頸部がん
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
入院外来区分	<input checked="" type="checkbox"/> 入院 <input type="checkbox"/> 外来

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	HN-36
登録日・更新日	2026年4月28日
削除日	
出典	Koyama T, et al. ESMO Open. 2024; 9(6): 103476
入力者	田中 慎

投与順に記入(抗がん剤のみ)

	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
No.1	セツキシマブ(遺伝子組換え) (アービタックス注射液) 生理食塩液	100mg 250mL	500mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	2時間	Day1, 15
No.2	パクリタキセル (パクリタキセル注) 生理食塩液	30mg, 100mg 500mL	100mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	1時間	day1, 8, 15

1コースの期間	28日
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能(日) ・ <input type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	【減量・中止基準】 <アービタックス> ●Infusion reaction Grade1,2 : 投与時間を2倍に延長 Grade3,4 : すぐに投与中止 再投与禁 ●皮膚毒性(Grade3以上)			
	用量調節の目安			
	Grade 3以上(注3)の皮膚症状の発現回数	本剤の投与	投与延期後の状態	
	初回発現時	投与延期	Grade 2(注3)以下に回復	A: 200mg/m ² で投与継続 B: 250mg/m ² で投与継続 C: 500mg/m ² で投与継続
			回復せず	投与中止
			Grade 2(注3)以下に回復	A: 150mg/m ² で投与継続 B: 200mg/m ² で投与継続 C: 400mg/m ² で投与継続
	2回目の発現時	投与延期	回復せず	投与中止
			Grade 2(注3)以下に回復	A: 投与中止 B: 150mg/m ² で投与継続 C: 300mg/m ² で投与継続
	3回目の発現時	投与延期	回復せず	投与中止
	4回目の発現時	投与中止		
A: 1週間間隔投与で放射線療法との併用の場合、B: 1週間間隔投与で放射線療法との併用以外の場合、C: 2週間間隔投与の場合				
注3)GradeはNCI-CTCに準じる。				
<パクリタキセル> ●白血球減少、好中球減少				
<ul style="list-style-type: none"> 各クールを開始時 投与前の白血球数<3,000/mm³ または好中球数 <1,500/mm³未満 : 骨髄機能が回復するまで投与延期する。 同一クール内 投与前の白血球数<2,000/mm³ または好中球数 <1,000/mm³未満 : 骨髄機能が回復するまで投与延期する。 投与後 白血球数<1,000/mm³ : 次回投与量を減量する。 				
減量の目安				
通常投与量	100mg/m ²			
1段階減量	80mg/m ²			
2段階減量	60mg/m ²			

催吐性リスク	軽度
前投薬	クロルフェニラミン注10mg
支持療法(その他)	なし
その他の注意事項	<p>【アービタックス】 ・2週間間隔投与の場合、放射線療法との併用における有効性及び安全性は確立していない。 ・調製時に振とうしないこと。</p> <p>【パクリタキセル】 ・本剤の希釈液は、過飽和状態にあるためパクリタキセルが結晶として析出する可能性がある。本剤投与時には、0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。 ・点滴用セット等で本剤の溶解液が接触する部分に、可塑剤としてDEHP[di-(2-ethylhexyl) phthalate:フタル酸ジ-(2-エチルヘキシル)]を含有しているものを使用を避けること。</p>